

4月25日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナ議員、露産ガスを事実上「購入継続」と認める(2025年4月22日)

ウクライナ最高会議(ラーダ)のオレクシー・クチェレンコ議員は、ウクライナがロシアで生産されたガスを、「回り回って」輸入していると指摘した。

「欧州ガス市場では代替供給が機能しており、我々はどのガスを買っているか把握していない。残念ながら皆さんをがっかりさせることになるが、我々は間違いなく露産ガスを購入している」

「欧州産」の露ガス

同議員によると、露南部から黒海を経由して欧州をつなぐパイプライン「トルコ・ストリーム」を通じ、ロシア産ガスがセルビアやハンガリーに送られる。一度欧州市場に入ってしまうと、そのガスの起源を追跡するのは困難で、結果的に「欧州産」の値札がついたロシアのガスをウクライナが輸入している可能性があるという。

背に腹は代えられぬ

EUも露産エネルギー資源を完全に放棄する意向を繰り返し表明している一方、先日もロシアからの液化天然ガス(LNG)の輸入禁止を再び延期している。米国からの供給の不確実性と世界市場の不安定な動きを背景に、現実を見ざるを得ないようだ。



<https://sputniknews.jp/20250422/19805330.html>

②ロシアは世界最強の超音速兵器をイギリス軍将校に使用、生存者は一人もいなかった(2025年4月22日)

<https://youtu.be/iBIjaErou28>



ロシアが世界最強の超音速兵器をイギリス軍将校に使用：生存者はなし

事実、これらの地域にあるウクライナ軍と NATO 軍の軍事施設は、独自の超音速対艦巡航ミサイル 3M55「ONIKS」によって攻撃され、破壊されました。このミサイルは、正に世界最強の超音速兵器と称されています。ONIKS は最高時速 2,000 マイル(約 3200km)に達し、最大 500 マイル(約 800km)離れた標的を攻撃することができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=iBIjaErou28>

③ダグ・マクレガー大佐「ウクライナは今、トランプの戦争だ」(2025 年 4 月 20 日)

トランプは戦争を早く終わらせると話しているが、まだ具体的な行動を起こしていない。

批評家によれば、彼の政権は、継続的な軍事援助を含め、バイデンのウクライナ政策をほぼ継続しているという。

ダグ・マクレガー大佐の見解：

トランプは米国の外交政策を完全に掌握していないと言う。

ゼレンスキーは米国の支援を早期に打ち切るべきだったと主張。

トランプは空回りするのをやめ、断固としたリーダーシップをとるべきだと主張。

戦争の責任：

トランプは、プーチンは戦争を起こすべきではなかったが、ゼレンスキーとバイデンはそれを防ぐことができたとも述べた。

マクレガーは、バイデンが NATO の拡張を止め、ロシアと交渉することで戦争を止めることができたという意見に同意している。

NATO と西側の戦略への批判：

戦争は NATO の東方への拡大とロシアの警告の無視に起因する。

<https://youtu.be/ThO1IR6EsWU>



<https://www.youtube.com/watch?v=ThO1IR6EsWU>

④ プーチン氏 米側に「侵攻停止」を提案か 英紙報道(テレ朝ニュース、2025 年 4 月 23 日)

ウクライナ侵攻の停戦協議について、ロシアのプーチン大統領が現在の前線の位置で侵攻をやめることをアメリカに提案したとイギリスメディアが報じました。

フィナンシャルタイムズは 22 日、複数の関係者の話として、プーチン大統領が今月 11 日にアメリカのウィトコフ中東担当特使と会談した際、和平の合意に向け現在、ロシア軍がいる前線の位置での侵攻停止を提案したと報じました。

またプーチン氏はロシアが一方的に併合を宣言したウクライナ東部の 4 つの州で、ウクライナが実効支配を続けている地域については領有権の主張を断念する用意がある考えも伝えたとしています。

これに対しアメリカ側は、4 州のうちロシアが現在占領している地域と、2014 年に一方的に併合したクリミア半島の支配を認める可能性を含む和平案を提示したということです。

侵攻以降、プーチン大統領が公に要求を後退させた形の提案を示すのはこれが初めてとみられています。

一方で「見せかけの譲歩でウクライナに既成事実として押し付けようする可能性が高い」とのヨーロッパの政府関係者の見方も伝えています。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/396f0eb70371b1167733b65bc2e6f056714b9bf6>



⑤ ウクライナと米英仏、停戦に向け具体策協議 ロンドンで 23 日に会合(2025 年 4 月 22 日)

<https://youtu.be/6wkNzrmwqas>



。紛争を止める唯一の方法
recognize はロシアの支配を認める通過した領土

<https://www.youtube.com/watch?v=6wkNzrmwqas>

⑥ゼレンスキーが内なる敵に：無慈悲な徴兵取り締まりでウクライナ人は殴られ、拷問された！ | TN ワールド(2025 年 4 月 23 日)

衝撃的な映像は、ウクライナの暗黒の動員戦術を明らかにしている。子どもの親権を失うと脅された父親、公衆の面前で殴打された市民、間に合わせの部屋で拷問された拘留者たち。ゼレンスキーの草案推進がエスカレートするにつれ、高まる動揺は、キエフがロシアに対してだけでなく、自国民に対しても戦争を仕掛けている可能性を示唆している。

<https://youtu.be/4O2ai2-fW1o>



<https://www.youtube.com/watch?v=4O2ai2-fW1o>

⑦ 日本はウクライナ紛争に事実上の介入をした。「情報共有は歴史的な転換を意味する」 (世界時論タイムズ・ナウ・ワールド) 2025 年 4 月 22 日

<https://youtu.be/gRhKcA7iiUI>



<https://www.youtube.com/watch?v=gRhKcA7iiUI>

〈関連情報〉日本は責任を負う：ウクライナは「致命的な贈り物」を受け取った。ロシア人の命が危険にさらされている(2025年4月23日)

日本はウクライナに衛星地理空間データを提供することに合意した。このデータはロシアに対する軍事目的で使用される。これは TG チャンネル「ディープステート」で明らかになった。

データは、ウクライナ国防省の諜報総局(GUR)と協定を締結した日本の研究機関 iQPS が提供する。



<https://x.com/tobimono2/status/1914714046613602389?s=09>

⑧ キエフ防衛に参加、ウクライナの英雄、元警官アルテム・ボノフ(2025年 4 月 23 日)

<https://x.com/i/status/1914740572616818759>



<https://x.com/Z58633894/status/1914740572616818759/video/1>

⑨またもや愚挙…ゼレンスキーがトランプを無視して「8 月まで戦争継続」を決断 (現代ビジネス、2025年 4 月 22 日)

ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領は 4 月 15 日、議会に戒厳令と総動員を 90 日間延長する法案を提出した。その二つの法案は 16 日に可決された。法律は 5 月 9 日に発効するため、戒厳令の期間は 8 月 6 日まで延長されることになる。

法律案第 13172 号「ウクライナにおける戒厳令の延長に関するウクライナ大統領令の承認について」は、357 人の国会議員が賛成票を投じ、1 人の国会議員が反対票を投じた。法律案第 13173 号「総動員期間の延長に関するウクライナ大統領令の承認について」は、346 人の国会議員がこの決定に賛成し、1 人が反対、1 人が棄権した。具体的には、2025 年 4 月 15 日付ウクライナ大統領令第 235 号「ウクライナにおける戒厳令の延長について」と、同大統領令第 236 号「ウクライナにおける総動員の延長について」が採択され、5 月 9 日からさらに 90 日間、8 月 7 日午前 5 時 29 分まで

戒厳令と総動員を延長するものである。

(出所)<https://www.golos.com.ua/article/383439>

戦争を継続したいゼレンスキー

この出来事は、戒厳令と総動員の期限がまだ残されているなかで、早めに延長を決めることで、ゼレンスキー大統領に停戦する気がないことを示している。なぜなら、動員の継続は、ウラジーミル・プーチン大統領が出していた完全停戦のための条件に明らかに反しているからである。

プーチンは、3月18日、2時間半にわたるドナルド・トランプ大統領との電話会談のなかで、ウクライナにおける強制動員やウクライナ軍の再軍備が停止される(つまり武器の納入が停止される)場合にかぎって完全停戦に同意するとしていた。その意味で、この最低条件を守るつもりのないことを示すことで、ゼレンスキーはウクライナ側に停戦する気がないことを明示したかったのだろう。

しかも、戒厳令と総動員の期限がまだ3週間あまり残されているにもかかわらず、早めに90日間の延期を決めたことで、戦争継続路線が確固たる方針であることをあえて内外に誇示しようとしているように見える。こうしたゼレンスキーの姿勢は議会にも影響し、議会内において、ほとんど反対者を出さないまま、二つの法案の可決にも成功した。

ただ、反対票を唯一投じたオレクシー・ホンチャレンコ議員は、動員解除がまだ行われず、復員も兵役条件もまだないなかで、動員をつづけようとするゼレンスキーを厳しく批判していた。しかも、「バス化」と呼ばれる、人々を路上で無理やりバスに押し込めて動員するやり方に大きな疑問符を投げかけてきた(昨年12月11日付拙稿「いつまでも戦争止めないゼレンスキー」を参照)。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/ac6eade225ff16f49d3686c4c7d3493ac89c8b37>

⑩ロシアがプレオブラジェンカを占領、ウクライナの主要供給拠点を壊滅(2025年4月23日)

本日の軍事チューブ - ロシア軍は再び旗を掲げました。今回は#Preobrazhenka 上空で、「中央」軍集団の第90親衛戦車師団の戦闘員が、#Krasnoarmeysk から約20キロ離れた集落のウクライナ軍の陣地と装備を壊滅させました。ロシア国防省は2025年4月22日、4月21日に発表された村の解放に関するニュースを正式に確認しました。これは象徴的かつ戦略的な前進であり、この戦線におけるウクライナ軍の主要輸送ルートの1つを遮断しました。一方、ここ数日、「中央」軍集団の第90装甲師団の兵士たちは、Krasnoarmeysk 地区で予備準備を進め、森林地帯に隠されたウクライナ軍の要塞を攻撃していました。130mm M-46 牽引砲の乗組員は、ドローン乗組員から目標座標を受け取った後、130mm 榴弾(HE)を連続して発射し、作戦行動を開始した。作戦は17km以上離れた隠蔽射撃地点から実行され、塹壕を破壊してウクライナ兵を全滅させ、突撃部隊の攻撃継続を支援した。

突撃部隊の進撃は敵の主要補給路の確保から始まり、そこで複数の装甲車両が同時に破壊された。そのうち1台、MaxxPro 車両はドローンによって容赦なく焼かれ、アメリカから補給された兵士の士気を壊滅させた。ロシアの突撃部隊が直面する最大の課題の一つは、無防備で無防備な広大な地形を進撃することである。郊外で戦力を集結した後、兵士たちは小規模な計画的な集団に分かれて集落に侵入し、計画的な攻撃を開始した。徐々に前進を続け、集落の建物を一つ一つ、一軒一軒壊滅させ、

前進を続けた。その一步一步が、困難ながらも果敢な戦いの成果だった。突撃部隊は無線局の使用を拒否し、音声信号システムを導入した。重要な戦術要素と発達した信号システムはその有効性を実証している。国防省によると、明瞭な音声指示により、無線通信なしで自動車化歩兵の結束した前進が可能になったという。

こうして、キエフの防衛線が急速に崩壊した後、ロシア兵は今や、一見無人となった集落の道路を車で快適に走行している。この前進は、主要集落の確保に向けた勢いが続いていることを示している。プレオブラジェンカのような領土獲得はロシアの立場を強化し、キエフの孤立を深め、戦争を意図的に長期化させ、ロシアの戦略的忍耐力を消耗させている。

<https://youtu.be/x-YHrTgidPU>



<https://www.youtube.com/watch?v=x-YHrTgidPU>